

音楽と交流を通して、学生・企業・地域が
つながる新しい形のキャリアイベント
九州産業大学×トリアス「ZAN ハロウィンナイトパーティー」



TORIUS to BIZ Event Report vol.19



ハロウィンカラーで盛り上げる!

さる10月25日、九州産業大学商学部の学生が自ら企画運営するイベント「ZAN ハロウィンナイトパーティー」が開催されました。

このイベントは、九州産業大学 商学部 経営流通学科「経営実践演習」の授業の一環として、学生自身がビジネスモデルをプランニングし、運営するというものです。今回のコンセプトは「就職活動がもっと、ラフに。もっと、直感で。企業と人が出会えたら…。」という想いのもと企画。

DJによる音楽が流れる空間の中で、学生と企業、そして地元の人々が垣根を越えてつながる、新しいスタイルの交流イベントとして実施されました。



会場は終始ノリノリ

2001年よりスタートした「経営実践演習」とは？

最近では、いろいろな大学で学生の将来を見据えて大学内起業や、ビジネスプランコンテスト、マーケティング実践など経営感覚や、起業に向けての学びを取り入れるところは多くなっていますが、この授業は開講当時、福岡のどの大学でも見ることはできない珍しい取り組みで、九州産業大学が、この地域では先駆けといってもいいとのこと。学生たちがそれぞれにチームを組み、自分たちでビジネスプラン考え、実行に移すところまでが1つの授業となっています。この20数年の間、OB達の中から2名が起業家として創出されているそうです。



「現在、この授業を取っている学生たちの中から、是非、事業化や起業する学生が出てきてほしい。理想はそこです。」と、この授業を立ち上げ、現在も担当されている浦野 倫平教授もおっしゃっていました。

今年度の授業は約10チームが参加しており、このイベントの立案者である、『TEAM ZAN』は、代表である、田中 雄大さん、緒方 悠史さんの2名が3年間この授業を取っていたこともあり、集大成としてのイベントを実施したいという考えからこの日に至りました。チームは他に、3名のメンバーで構成されていますが、4月に開講時の1回目の企画の話合いの時から「何かイベントをやりたい!」と最初から、その気持ちで進んできたそうです。チーム名の『ZAN』には、“斬新”や“記憶に残る”という意味が込められており、「斬新なアイデアで、記憶に残るように」という気持ちで企画から運営まで頑張りました。



手探りで行う告知や集客に四苦八苦

最初にこのイベントのきっかけになった“音楽”を絡めるというテーマですが、メンバーの一人、緒方さんが、普段からプライベートでDJとして活動しており、うまく音楽を挟んだハロウィンイベントをやりたいと考えたそうです。最初は子ども向けになど、いろいろと試行錯誤し、会場についても、ここ最近、大学とのコラボ実績のあるトリアスに相談する形で就活の「かしこまった」場を飛び出し、音楽と交流を通して、学生は企業の担当者と気軽に話し、企業は未来の人材と自然に出会うという今回のイベントが実現する運びとなりました。

当初は、ダンスイベントを入れたり、スポンサーとして協賛してくださった企業とのセッションなど企画には、いろいろなプログラムを盛り込んでいましたが、大学内や他校、自分たちのつながりのあるダンスサークルの代表や知り合いにDM（ダイレクトメッセージ）を流してみてもなかなか回答を得られず、予定していた内容をやむを得ず変更することになりました。

また、同大学内でも他にも色々イベントが行われており、思いのほか集客に苦戦してしまい、当日、企業説明をしていただく予定だった協賛企業の方に別日を設定してほしいとの申し出があったりと、なかなか予定通りにならず、当日も朝から2人の代表が奮闘する姿が見られました。



協賛いただいた企業様



協力いただいたRed Bull様

企業側も場の空気を読んでCall&Responseで会場を盛り上げる！キッズダンサー飛び入りで空気が軽くなる!!

当日説明会を実施する企業として、舞台に登壇したのは協賛社で携帯電話販売の代理店を福岡で10店舗展開する【株式会社アップビート】人事部採用グループ グループ長 飯島 大珠さん。企業のミニ説明会を行うにあたって、会場にいる参加者に向かって「今日の会場は、堅苦しいことなしで！Call&Responseでいきますね!」と「元気ですか!」「楽しんでますか!」とその場を和ませてくださっていました。

飯島さんにお話を伺ったところ、「弊社には、九産大のOBも働いており、九州圏で働きたい人向けに、是非お話しできればと、今回の協賛をお受けしました。」とのこと。担当の方はこの日、横浜から参加されたそうで、この機会に、九州内のいくつかの店舗の視察にも行けるので、良いきっかけになったとおっしゃっていました。

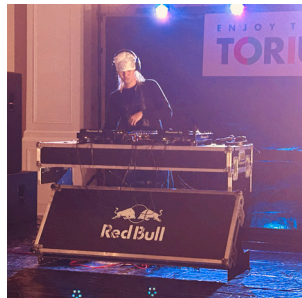
お昼からスタートしたイベントは、交代でターンテーブルを回すDJたちのムーブで熱い空気に包まれていました。お気に入りのプレーヤーがいれば、ノリノリでダンスを踊る人やSNSを見て来場されたご家族のキッズダンサーが、大人や学生さんに混じって踊っている姿もなかなか見ることができない世代間コラボになっていました。まさに、『学生と企業、そして地元の人々が垣根を越えてつながる』が実践されていたのではないのでしょうか。



㈱アップビート様のご挨拶と企業説明会



飛び入りのキッズダンサーに目はくぎ付け!



後半もDJが放つグループに魅了される

■ たくさんありすぎた反省点 But 失敗もすべて経験に

普段、DJが参加するクラブイベントなど、すでに箱(実施する会場)や同じ趣味を持つ人々たちにとってネームバリューのある出演者が参加する場所とは違い、ターゲット、集客ツール、誰に相談するべきか等…考えるところはいろいろあると思います。運営側の田中さんも、「人が少ない、集客がまずい…」と、イベント開催中、ずっと電話をかけたり、SNSで呼びかけたりしていましたが、思いのほか、人が集まらなかったことについて反省の弁を述べていました。この、「経営実践演習」の授業は12月が最後の授業となっており、それまでに何らかの成果を出すことができ、うまくいけば事業化するなどの目標があります。このイベントが終了したことで、『TEAM ZAN』の実践は終わりです。あとは、最後の報告書を作成することでこの授業の目標は達成の予定。

最後に、もう一人の授業の担当 山下 淳司教授にコメントをいただきました。「イベントというのは、根回しがほとんど。初めての大規模なイベントへの取り組みで、考えた企画をその通りに実行することがどれほど大変なのか、集客はそんなに簡単ではないこと、協賛してもらった企業さんに何が返せるのか、彼らにとっては、全てのことが初めてで、本当に勉強になったと思います。今回の奮闘記を是非書いてやってください」このように、おっしゃっていました。



代表の緒方さん(左)と田中さん(右)

SNS時代の申し子である彼等が、人を集めることの大変さを味わい、アナログも含めた人と人、周辺の環境などのつながりを考えるきっかけの一助をトリアスが担うことができている幸いです。これからもトリアスは、産学官連携に力を入れていきたいと考えています。



主催：九州産業大学 商学部経営流通学科 経営実践演習 TEAM ZAN
共催：トリアス
協賛：株式会社ほけんの110番、株式会社アップビート、株式会社Re.make、
サントリービレッジソリューション株式会社、株式会社イシマル、株式会社小島組、KOKS株式会社
協力：Redbull japan